

# 令和7年度(2025年度)事業報告

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

## 1 事業報告概要

苫小牧市社会福祉協議会は「ともに支え合い みんなの笑顔が見えるまちづくり」を基本理念に、地域の住民同士の顔が見える関係を構築し、相談者に寄り添った伴走的な支援に取り組んできました。

地域生活の課題がますます複合化、複雑化する中、生活困窮者、身寄りのない方、ひきこもり及びヤングケアラーなど多様に絡み合ったこれからの地域生活の課題に対応するため、行政や関係機関と連携・協働しながら、市民による支え合いが地域に根付くよう取り組みました。

本年度本格的にスタートした重層的支援体制整備事業は、市内中心部に「社協 BASE (ベース)」を開設し、福祉の相談窓口や地域の住民同士が気軽に立ち寄ることができる場として、地域交流の活性化に取り組みました。また、既存の居場所づくりにおいても参加者の困りごとの気づきの場となり、相談や生きづらさに寄り添いながら支援につながる事業を展開しました。

また、ボランティア活動等の市民による支え合いを広げるため、雪かきボランティア事業やだけボラ灯油運搬事業などを行ってきました。福祉の担い手や協力者として市民、中高生、企業ボランティアなど、多様な主体が協力し、世代や背景を超えた支え合いの輪が広がり「相談支援、参加支援、地域づくり」が着実に進展しています。

こうした取組が認められ、本社協は令和7年10月に北海道社会福祉協議会会長顕彰「優良社会福祉協議会」として表彰されました。これは、51年ぶりとなります。地域の皆さまや関係機関の皆さまに感謝し、共に喜び合いたいと思います。



令和7年10月21日  
「優良社会福祉協議会」



だけボラ灯油運搬事業協力の様子

## 基本目標 1 安心して暮らせる支援体制づくり「ひとへの支援」

### 【重点目標 1】 全ての市民が自立し安心して暮らせる環境づくり

高齢者の安否確認事業など地域の方々が安心して暮らせるために、様々な福祉活動を行政や、関係機関と連携し、必要な市民に利用しやすく、かつわかりやすいサービスを提供することで、自立した生活を支えました。

主な事業

高齢者給食サービス	愛の一声運動
雪かきボランティア	車いす・福祉車両の無料貸出
無縁仏供養法要	かぎ預かりサービス事業
在宅介護者リフレッシュ事業	



「高齢者給食サービス事業」

### 【重点目標 2】 市民に求められる相談支援体制の確立

高齢者や障がい者に限らず幅広い世代で様々な課題を抱えています。ひきこもり、不登校やヤングケアラー等の課題については、コミュニティソーシャルワーカー (CSW) が中心となり、安心して過ごせる居場所づくりや伴走支援を関係機関と連携し実施しました。

権利擁護体制は、第Ⅱ期成年後見制度利用促進計画に基づき、東胆振 3 町の行政及び社協と共に地域の権利擁護の推進を継続し、法定後見制度のほか、身寄りのない人への支援を実施しました。

生活福祉資金等の貸付事業は、世帯の経済的自立と安定した生活に向けた相談対応をなどの支援を行いました。

主な事業

コミュニティソーシャルワーカー (CSW) の配置	コミュニティカフェ igocoti	こどもわかものそうだん所 Kamakura
居場所とまとま	不登校座談会風まち	おしゃべりカフェ Peace
日常生活自立支援事業	成年後見支援センター	法人後見事業
緊急事務管理事業	心配ごと相談・無料法律相談	生活福祉資金等の貸付事業



「コミュニティカフェ igocoti」



「kamakura」

## 基本目標 2 笑顔あふれる地域づくり「地域への支援」

### 【重点目標 3】 市民と協働した地域づくり

ボランティア活動への理解促進と活動の推進を図るため、小中高校生や一般市民を対象にした福祉学習の出前講座や研修会を開催し、福祉教育の充実を図りました。介護支援いきいきポイント事業は、ボランティア登録者の年齢を 65 歳以上から 40 歳以上に変更し、幅を広げたことで若年層のボランティアが増え、様々な活動のマッチングを行うことができました。また、読み聞かせボランティア講習会を実施し、こどもたちの健全育成とボランティア活動の充実を図りました。

福祉人材バンクは、福祉に興味を持ってもらう取組として「VR で知る認知症の世界」と題した体験型の講習会を開催しました。

主な事業

介護支援いきいきポイント事業	ボランティアスクール
ボランティア活動への理解促進と活動の推進	テーマにあったボランティアの養成 (点訳・朗読・傾聴・読み聞かせ等)
福祉学習	福祉人材バンク

### 【重点目標 4】 地域力を生かした支援体制の確立

複雑化する地域の様々な生活課題の解決に向け、生活支援コーディネーター（SC）が中心となり、地域住民同士の支える・支えられるという関係を超えて、地域の福祉を高める支援を行うため、ふれあいサロン事業の推進、地域における担い手・生きがいづくり及びだけボラ事業を実施しました。

ハートマ STS 移送サービス事業は、自動車販売店と運転ボランティアの協力により、勇払・樽前地区にお住いの対象者の通院の送迎を行いました。

災害ボランティアセンターは、近年多発する災害に備え、防災・減災の意識を高めるため、平常時から苫小牧市と連携し、職員、地域住民を対象に講座を開催しました。

主な事業

重層的支援体制整備事業	生活支援体制整備事業
犬猫一時預かり事業	ふれあいサロンの推進
担い手活動支援だけボラ	ハートマ STS 事業 (勇払・樽前移送支援)
災害時における町内会見守り活動の推進	ボランティアフェスティバルの開催
災害ボランティアセンターの整備	共同募金への協力



「ハートマ STS 事業(移送支援)」

## 基本目標 3 地域から信頼される社協づくり「まち全体への取組」

### 【重点目標 5】 情報提供体制の充実

地域福祉活動を推進する各種事業の取組のうち、昭和 47 年 3 月に創刊した「社協だより」は、より多くの市民に情報発信を行うため取り組んできましたが、令和 8 年 1 月発刊で 200 号を迎えました。また、情報発信ツールとして SNS によるリアルタイムでの発信を行い、幅広い世代へアプローチしました。

主な事業

社協だよりの発行 4 回/年	社協ホームページ
社協リーフレット	各課インスタグラム・Facebook・LINE



「社協だより 200 号」

### 【重点目標 6】 地域を支える社協運営の強化

法人運営は、理事、監事、評議員の任期満了に伴い新体制のもと、ガバナンスの強化を図るとともに、関係法令、本会諸規定を遵守しコンプライアンスの適正な運営に努めました。職員研修は、相手との建設的な関係を築く伝え方の技法「アサーティブコミュニケーション」を学びました。

また、各種自主事業を安定的に実施できるよう、市内の企業や団体及び地域住民へ、社協の事業や社協の活動について理解いただき支援者を広げる取組に努め、賛同会員の加入促進を継続しました。

市と社協との定例のミーティングを毎月実施し、情報の共有等、行政と連携を図りました。

主な事業

理事会・評議員会	役員研修会	自主財源の確保
----------	-------	---------

## 【重点目標7】 市民に親しまれる拠点づくり

指定管理業務の市民活動センターの管理運営は、これまで同様に安全安心に利用いただくため、施設の維持管理に努めました。また、市民からの要望がおおくありました貸館のWeb予約システム「いつでも貸館」を導入し、利用者の利便性と稼働率の向上につなげました。また、施設内の犯罪抑止及び利用者の安全を確保するため、防犯カメラを7台設置しました。

自主事業は地域住民の協力のもと、西側駐車場に花壇づくりを行いました。また、市民の活動拠点として幅広い年代に利用してもらえるよう、市民ギャラリーで中高生世代の絵画作品展示を実施し、4日間で143人の方が来場するなど好評を得ることができました。

男女平等参画推進センターは、男女平等参画推進の拠点施設として、生涯学習講座、人権講演会、LGBT理解促進講演会など、様々な男女平等参画を取り巻く社会問題に気付いてもらうことに重点を置いたセミナーを実施しました。

### 主な事業

指定管理事業  
(市民活動センター管理運営事業・男女平等参画推進センター事業)



「花壇づくり」



「絵画展示：ハートマアート展」

### 指定管理自主事業